

組み立てを始める前にお読みください



MORINAGA, YOH

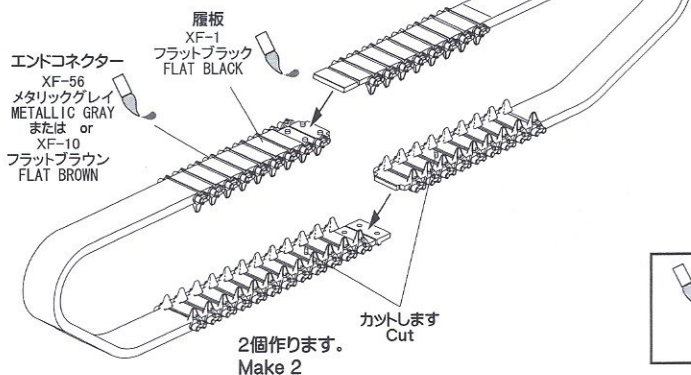
- あらかじめ組立説明書に目を通し、全体の流れを把握しておきましょう。
- このキットは3種類の塗装例を選べますが、それぞれで一部仕様が異なります。最初にどの塗装例にするか決めてください。
- ナイフやニッパーなどの刃物の取り扱いには充分ご注意ください。商品の性格上先端の尖った部品があります。お取り扱いには充分注意して下さい。
- 部品とランナーをつなぐゲートには部品の下側に入り込んでいるものと、横に付いているものがあります。注意してカットしてください。
- 部品は接着剤をつける前に接着位置を確認するなど必ず仮組みをして下さい。特に可動部には接着剤がつかないように注意してください。
- 成形品には金型の油や離型剤がついている場合があります。組み立て中の汚れ落としを兼ねて塗装前に中性洗剤で洗うことをお勧めいたします。
- 成形品の接着にはプラスチックモデル用接着剤、エッチングの接着には瞬間接着剤をご使用ください。

- Study the instructions thoroughly before assembly.
- When assembling this kit, tools including knives are used. Extra care should be taken to avoid personal injury.
- Read and follow the instructions supplied with paints and/or cement, if used.
- Use plastic cement and paints only (available separately).
- Use cement sparingly and ventilate room while constructing.
- Keep out of reach of small children. Children must not be allowed to suck any part, or pull vinyl bag over the head.

1 キャタピラの組立

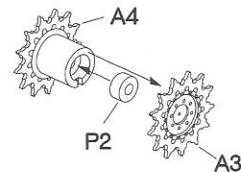
キャタピラはプラスチックモデル用接着剤で組み立てます。接着部分が密着していることを確認し、接着が乾くまで動かさないようにします。

Assemble the track with plastic model cement.



2 ドライブsprocketの組立

《ドライブsprocket》2個作ります。 Make 2

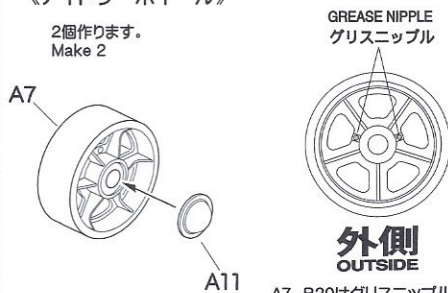


組立図中で特に指示のないところは全て車体色です。車体色は塗装例ごとに異なります。別紙の塗装解説書を参考に塗装してください。 Where color is not specified please use colors as per body color scheme.

3 ホイールの組立

《アイドラーホイール》

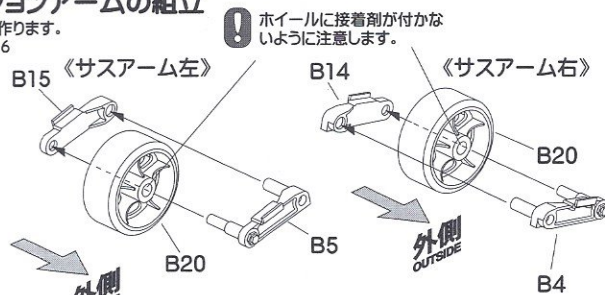
2個作ります。 Make 2



GREASE NIPPLE グリスニップル
外側 OUTSIDE
A7, B20はグリスニップルの模様のある側が外側になります。

4 サスペンションアームの組立

各6個作ります。 Make 6

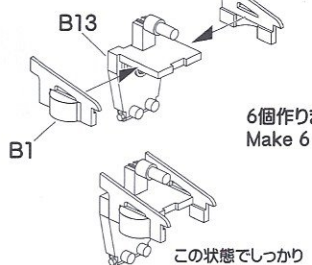


① ホイールに接着剤が付かないように注意します。

② 次の工程でボギーを組み立てる際に、矢印で示した側が外側になるように注意します。

5 ボギーの組立 1

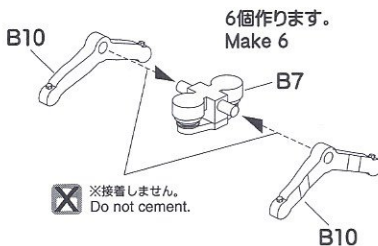
《ボギー本体内側》



6個作ります。 Make 6

この状態でしっかり乾燥させます。

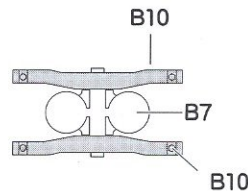
《ホリユースフリック》



6個作ります。 Make 6

※接着しません。 Do not cement.

B10の向きに注意します。



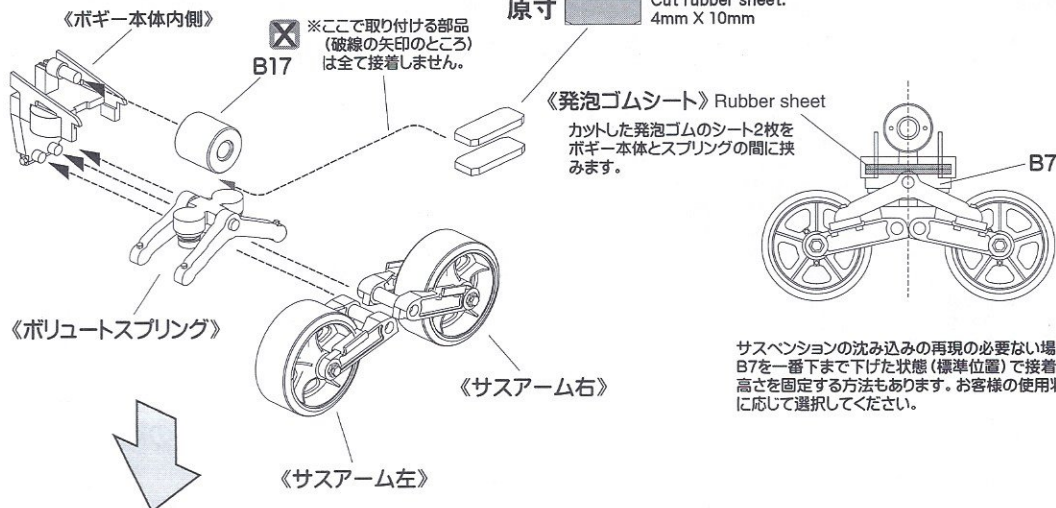
6 ボギーの組立 2

6個作ります。
B3を組み込むまでは間を開けず一度の
工程で組み立てます。

Make 6.

発泡ゴムのシートを約4ミリX10ミリの大きさにカットし、四隅を更に切り取ります。
下の図を参考にカットしてください。

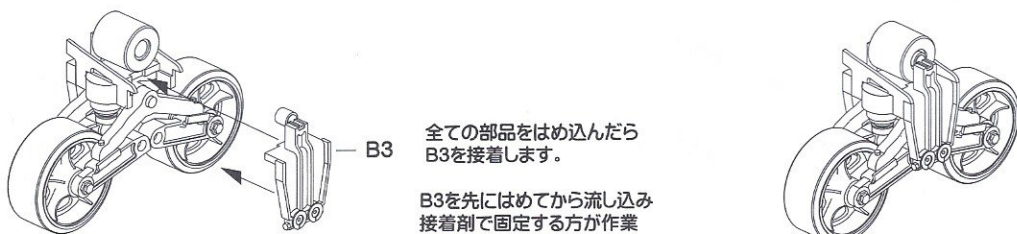
原寸  Cut rubber sheet.
4mm X 10mm



《発泡ゴムシート》 Rubber sheet

カットした発泡ゴムのシート2枚を
ボギー本体とスプリングの間に挟
みます。

サスペンションの沈み込みの再現の必要ない場合、
B7を一番下まで下げた状態(標準位置)で接着し、
高さを固定する方法もあります。お客様の使用状況
に応じて選択してください。



全ての部品をはめ込んだら
B3を接着します。

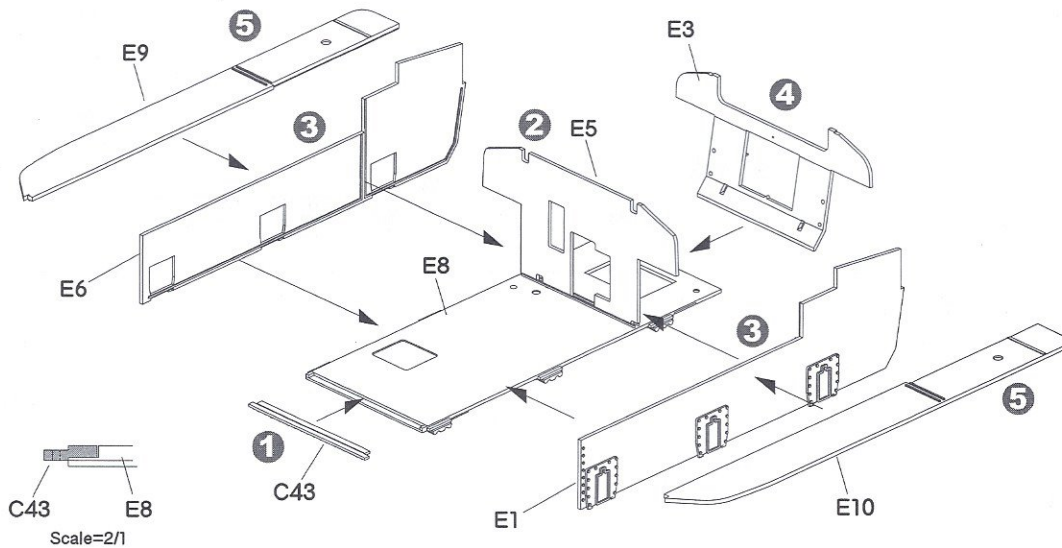
B3を先にはめてから流し込み
接着剤で固定する方が作業
が楽ですが、接着部分以外に
接着剤が着かないように注意
してください。

! 接着が乾くまで動かさ
ないようにします。

Until glue dries, try not to move.

7 車体下部の組立

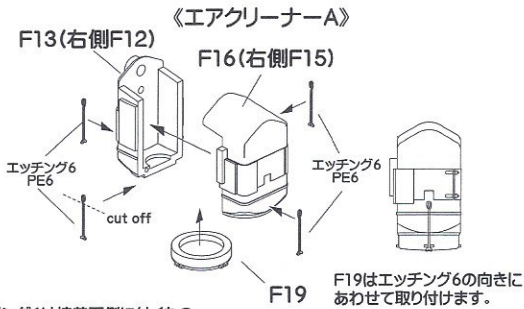
①から⑤の順番に組み立てます。各部品の仮組みを必ず行い、接着部分の確認を
しておきます。部品を仮組みしてから流し込み接着剤で接着するとよいでしょう。
この工程は中断せず一度に組み立てて下さい。
Assemble steps ① to ⑤ in sequence. This assembly should be performed without interruption.



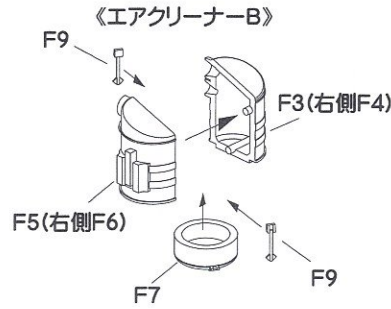
C43はE8の上に重ねる
ように接着します。

8 エアクリナーの組立

実車ではエアクリナーのタイプはA/Bどちらか確認できませんが、塗装例1はAの可能性が高く、それ以外はお好みのタイプをお選びください。

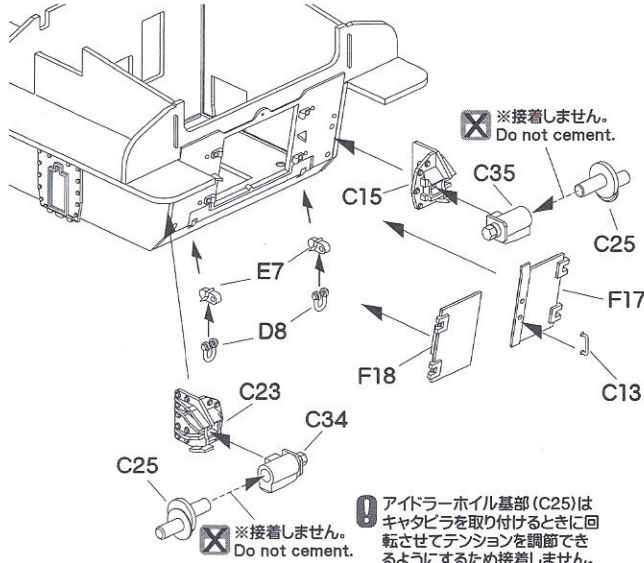


Etching 6は接着面側に付くもののみ上端をカットして使用します。



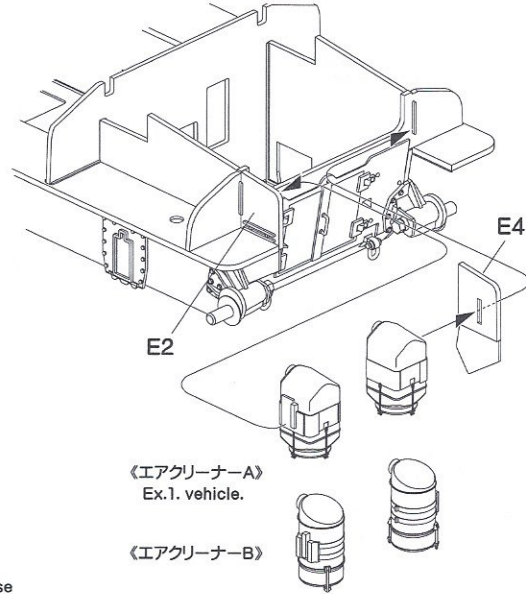
F7の向きは特に決ま
っていませんが、車体
の対角線方向に留め
金F9が向いている場
合が多いようです。

9 リヤパネルの組立



① アイドラーホイール基部 (C25)は
キャタピラを取り付けるときに回
転させてテンションを調節でき
るようにするため接着しません。

When installing track, turn idler base
(C25) to adjust tension in the track.

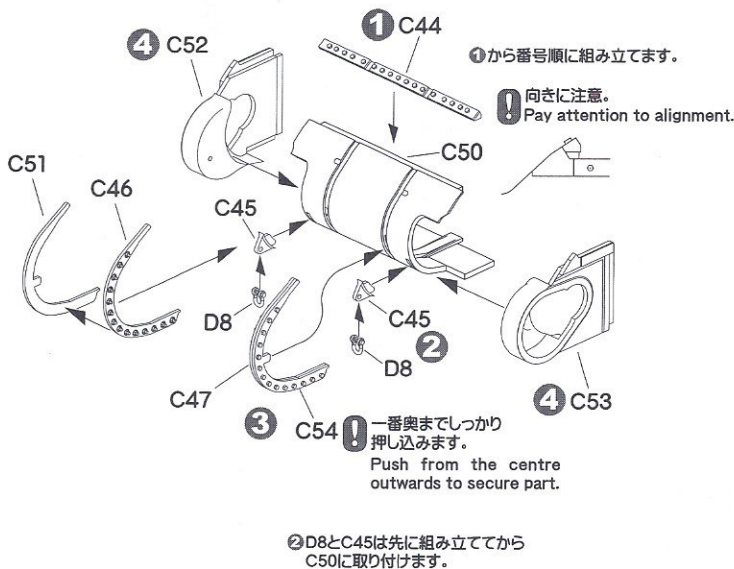


《エアクリナーA》
Ex.1. vehicle.

《エアクリナーB》

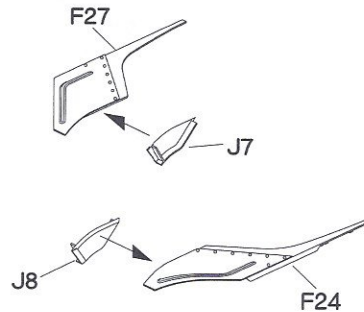
10 デファレンシャルカバーとフェンダーの組立

《デファレンシャルカバー》

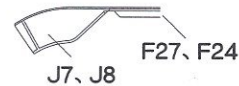


② D8とC45は先に組み立ててから
C50に取り付けます。

《フロントフェンダー》

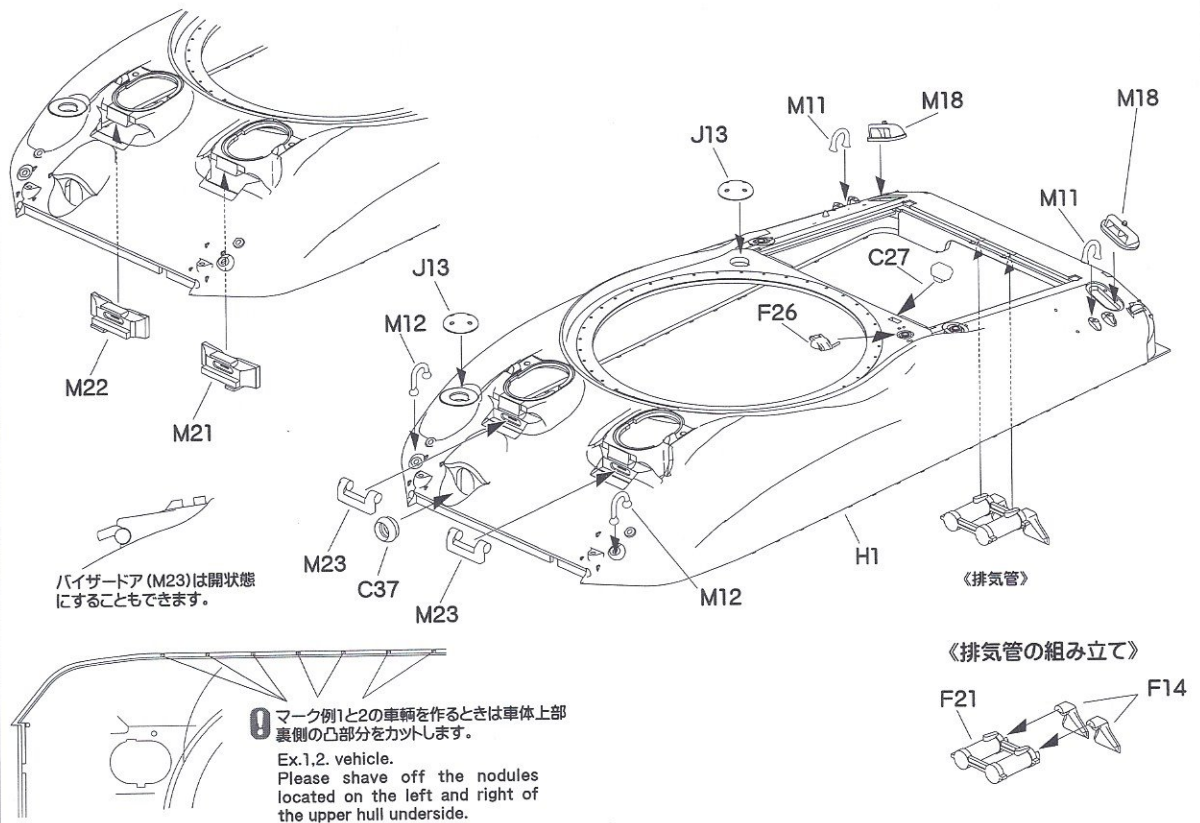


《フロントフェンダー側面図》



11 車体上部の組立

車体上部の裏側から直視バイザー (M22、M21) を取り付けます。

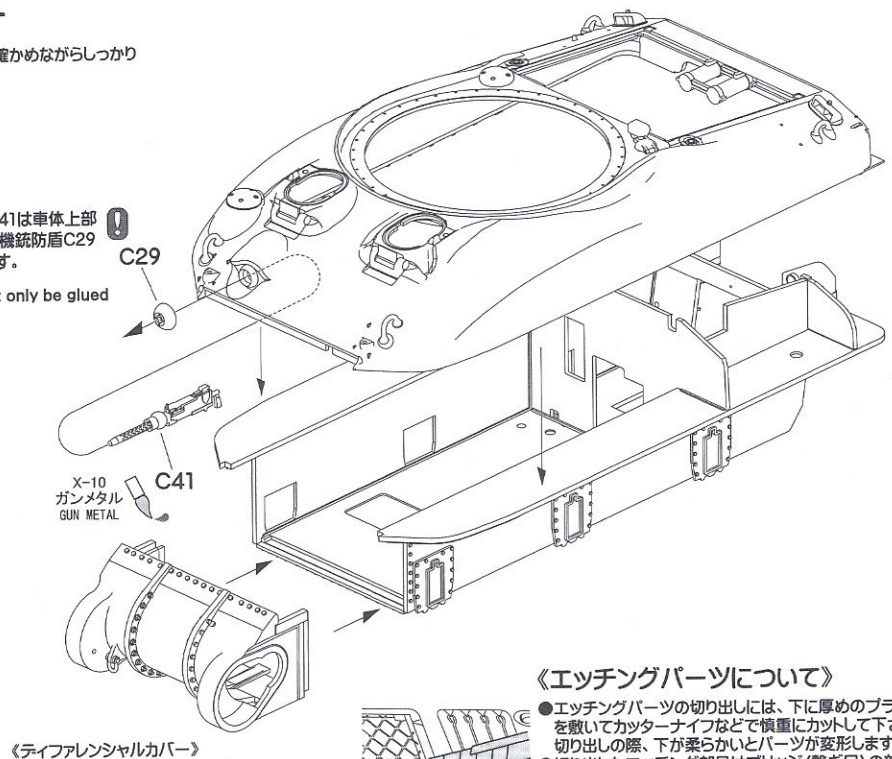


12 車体上部の取り付け

車体上部は浮いていないか良く確かめながらしっかり接着してください。

車体前方機銃C41は車体上部には接着せずに機銃防盾C29にのみ接着します。

Part C41 must only be glued to part C29.



《エッチングパーツについて》

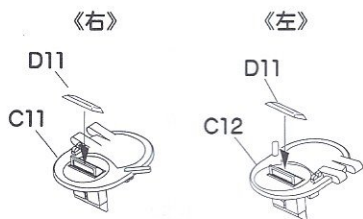
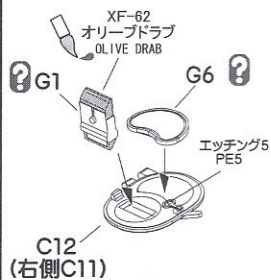
- エッチングパーツの切り出しには、下に厚めのプラ板等を敷いてカッターナイフなどで慎重にカットして下さい。切り出しの際、下が柔らかいとパーツが変形します。
- 切り出したエッチング部品はブリッジ (繋ぎ目) の部分をヤスリなどできれいに成形して下さい。
- 直線部分の曲げ加工には専用工具を使うか、金尺等をしっかり当ててずれないように丁寧に曲げて下さい。
- 接着にはゼリー状瞬間接着剤か透明のゴム系接着剤をお使いください。
- 塗装面には金属用プライマーを塗布して下さい。

13 ドライバースハッチの組立

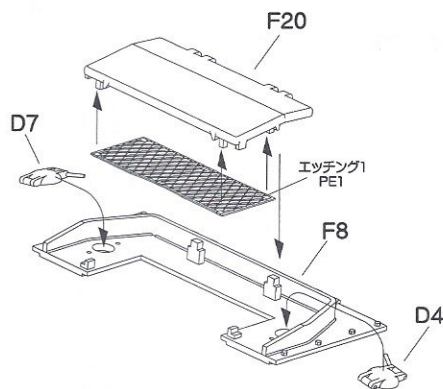
《ハッチ裏側の工作》

G6は取り付け自由です。
ペリスコープ(G1)は透明か色付きの
部品を選びます。

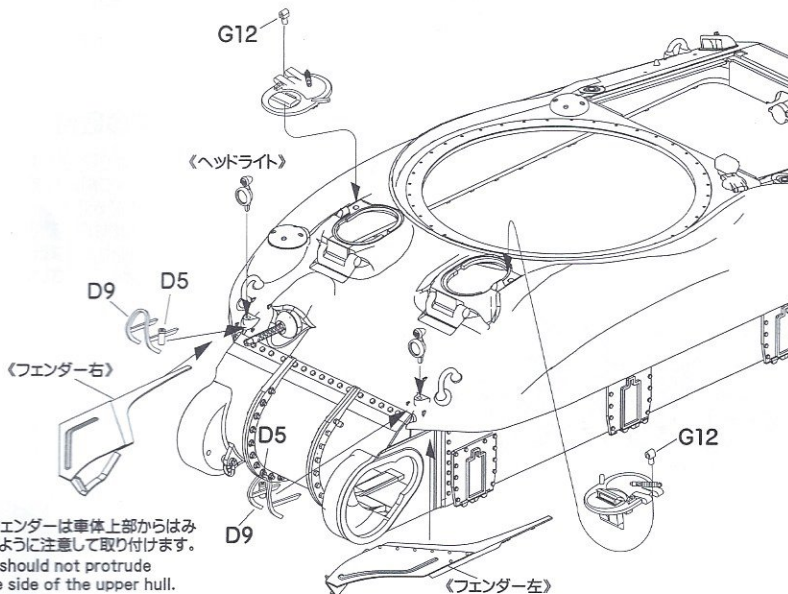
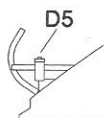
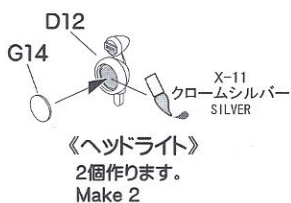
Φ0.3mm位の真鍮線
等を使用してハッチに
取手を付けるとよりリ
アルに仕上がります。
右の原寸図を参考に
工作してください。



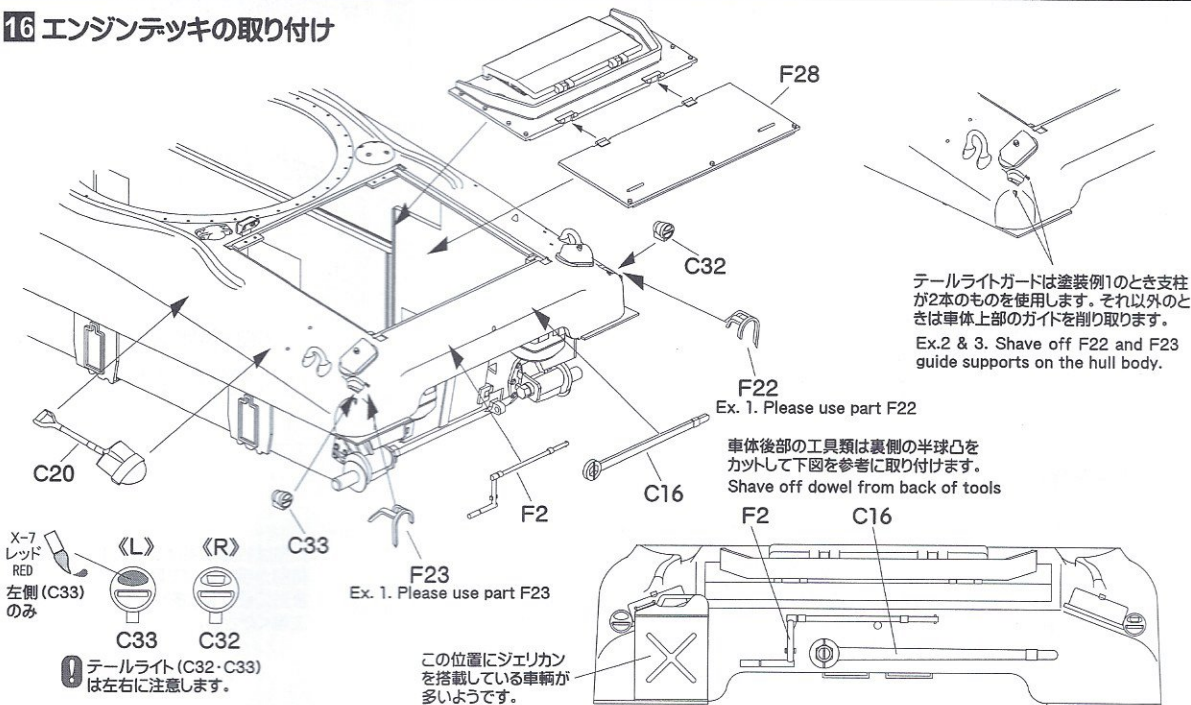
14 エンジンテッキの組立



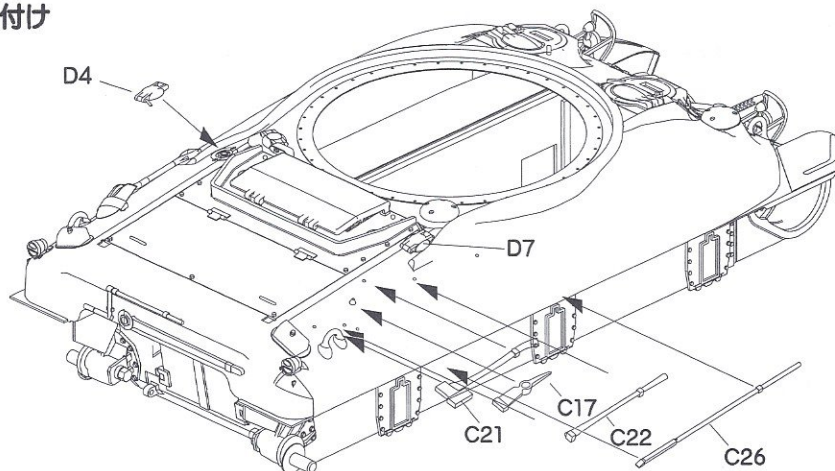
15 車体上部部品の取り付け



16 エンジンテッキの取り付け

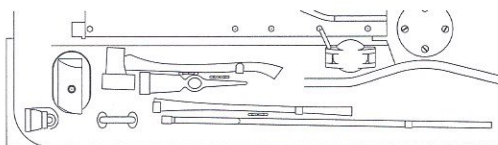


17 車体右側部品の取り付け



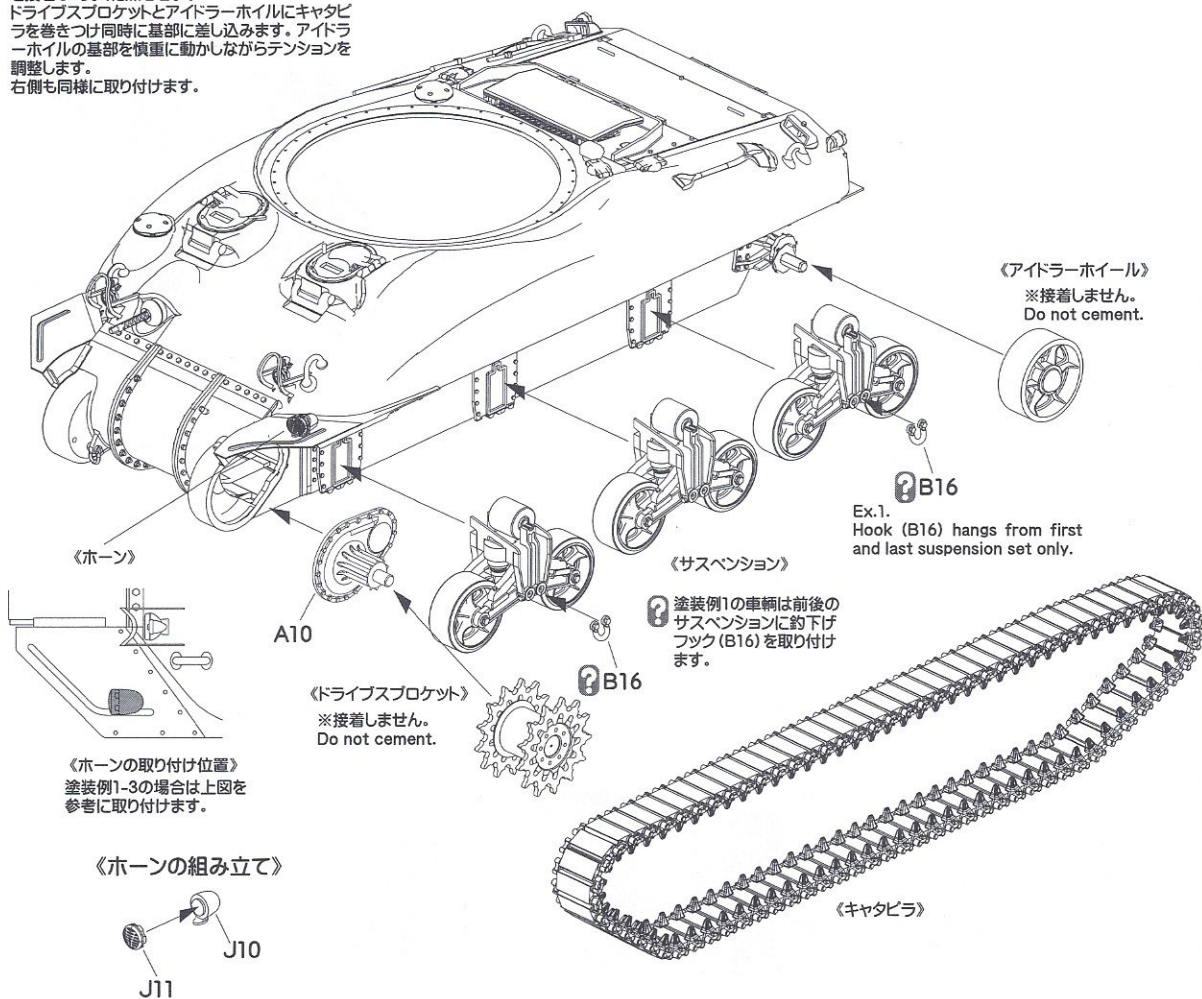
《OVM(車外装備品)の塗装について》

アメリカ製の軍用車輛の車外装備品は基本的にオリブドラブで塗装されています。本製品でも塗装指示は車体色との前提に立ち、個別の塗装指示はしてありませんが、使用中に色がはげたり、汚れなどの表現をすると、単調にならずリアルになるでしょう。



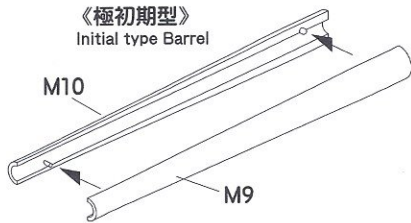
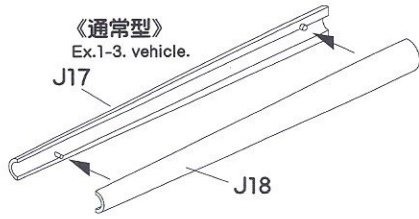
18 キャタピラの取り付け

車体にファイナルドライブ (A10) とサスペンションを接着し、良く乾燥させます。ドライブsproケットとアイドラーホイールにキャタピラを巻きつけ同時に基部に差し込みます。アイドラーホイールの基部を慎重に動かしながらテンションを調整します。右側も同様に取り付けます。



19 主砲の組立

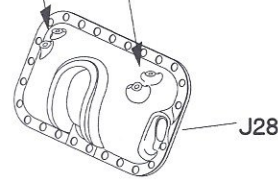
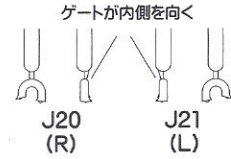
《砲身の組立》



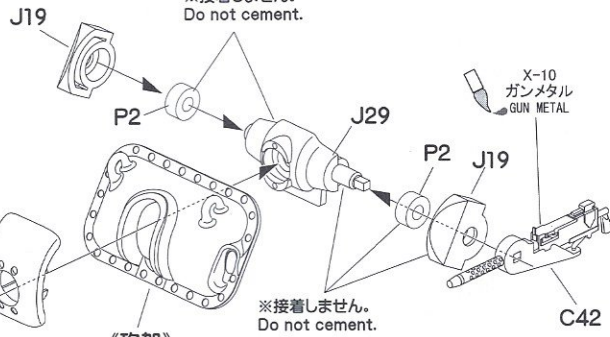
極初期型の砲身は本キットのマーク例では
使用しません。
M9 and M10 not used.

《砲架の組立》

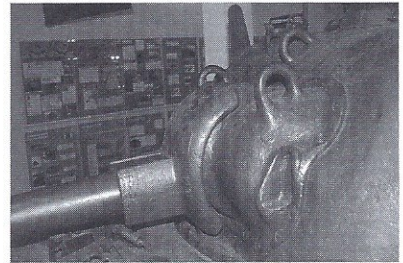
J20 J21 左右を間違えないように
注意します。



※接着しません。
Do not cement.



防盾J23はJ29にのみ接着します。
主砲と運動するように仮組みで位置
をよく確認してください。

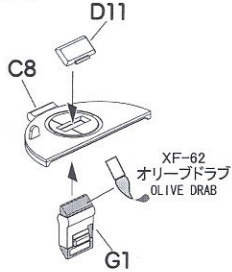


実車のM34砲架です。同軸機銃は取り外されて
います。車体はM4初期型。

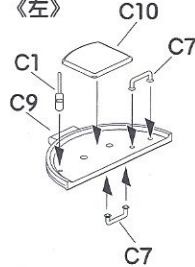
20 砲塔部品の組立

《コマンドースハッチ》

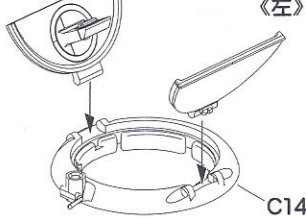
《右》



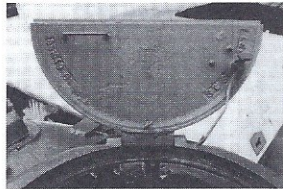
《左》



《右》



《左》

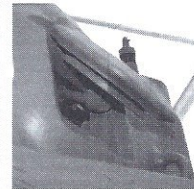
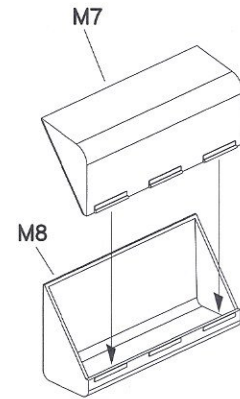


実車のコマンドースハッチ
パッドは失われています。

《排莢ハッチ》



《雑具箱》



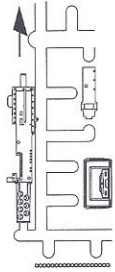
実車の排莢ハッチ
(半開状態)

21 M2重機関銃の組立

このページではキューボラ上に取り付けるM2重機関銃の組み立てを行います。
非常に細かい部品が多いので慎重に組み立てましょう。

A 機銃本体の組立

ランナーから
機銃本体を引
き抜きます。



ゲートの跡を
整形します。



どちらか選びます。

《閉状態》

《開状態》

X-10
ガンメタル
GUN METAL

機銃本体

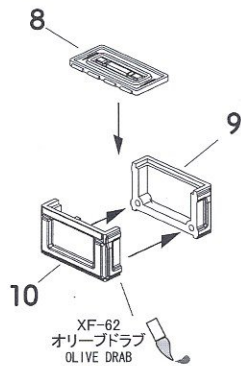
XF-1
フラットブラック
FLAT BLACK
または
XF-10
フラットブラウン
FLAT BROWN

5 4 取付位置詳細図

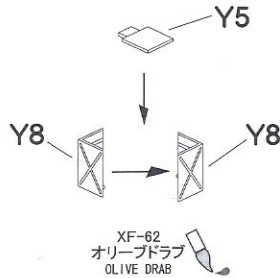
《銃身》
どちらか選びます。

B 弾薬箱の組立

《100発用弾薬箱》

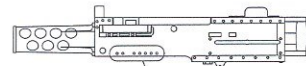


《50発用弾薬箱》

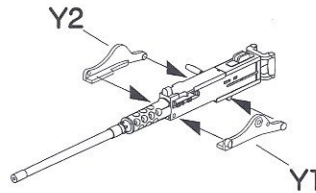


C 揺架の取付

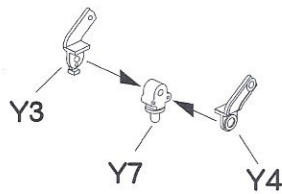
機銃本体を取付けず
揺架のみで組み立て
ることもできます。
この場合は接着部分
が非常に小さくなる
ので注意して下さい。



揺架の付く部分のリベット
模様を削り取ります。
Shave off rivet pattern.



D ピントルの組立

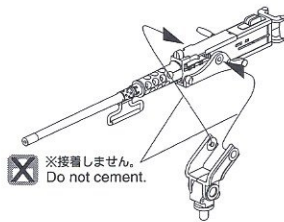


前 後
Front Back

Y7の向きに注意して
下さい。
Pay attention to the
direction of Y7

Scale=2/1

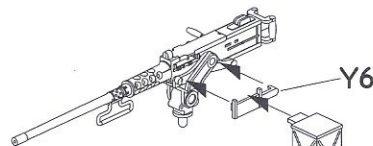
E ピントルの取り付け



※接着しません。
Do not cement.

揺架左右Y1・Y2の凹み
にピントルY3・Y4の凸部
をはめ込みます。

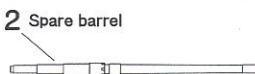
F 弾薬箱の取り付け



《50発用弾薬箱》

弾薬箱の取り付け
は自由です。

《予備銃身》



本体から取り外した状態
で使用するときはこの部
品を使います。

《弾帯》

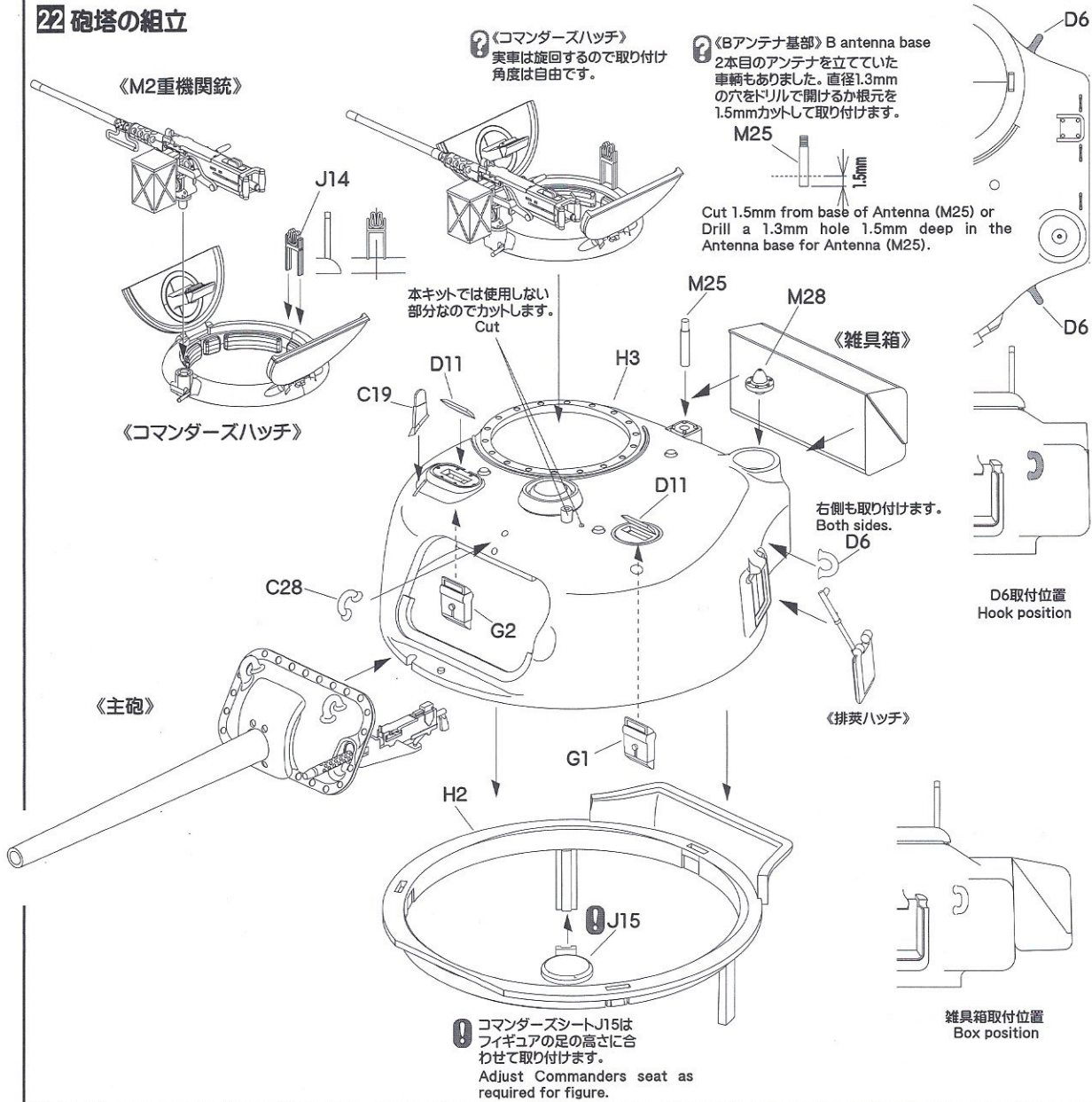
XF-56
メタリックグレイ
METALLIC GRAY

XF-6
コッパー
COPPER

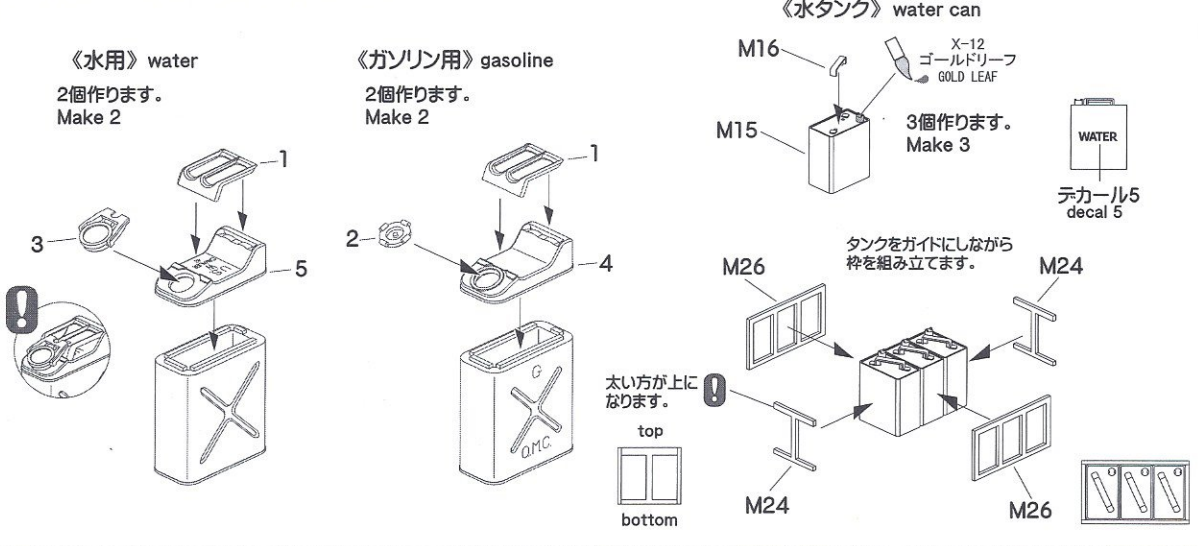
X-12
ゴールドリーフ
GOLD LEAF

11 弾帯はお湯に浸けながらゆっくり
何回か手で曲げて馴染ませます。
急激に曲げると折やすいのでご
注意ください。

22 砲塔の組立

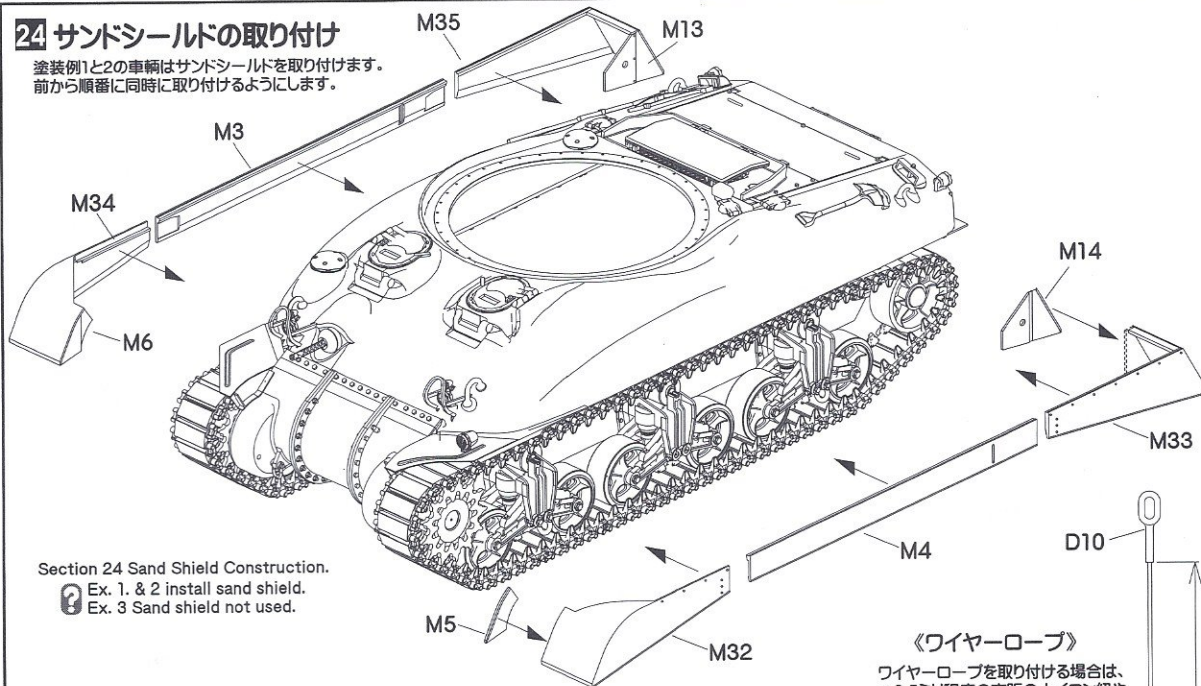


23 ジェリカンと水タンクの組み立て



24 サンドシールドの取り付け

塗装例1と2の車輻はサンドシールドを取り付けます。
前から順番に同時に取り付けるようにします。



Section 24 Sand Shield Construction.

Ex. 1. & 2 install sand shield.

Ex. 3 Sand shield not used.

《ワイヤーロープ》

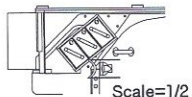
ワイヤーロープを取り付ける場合は、
φ0.5ミリ程度の市販のナイロン紐や
ワイヤーを160ミリの長さで切り出し
両端にD10を接着します。

XF-56
メタリックグレイ
METALLIC GRAY

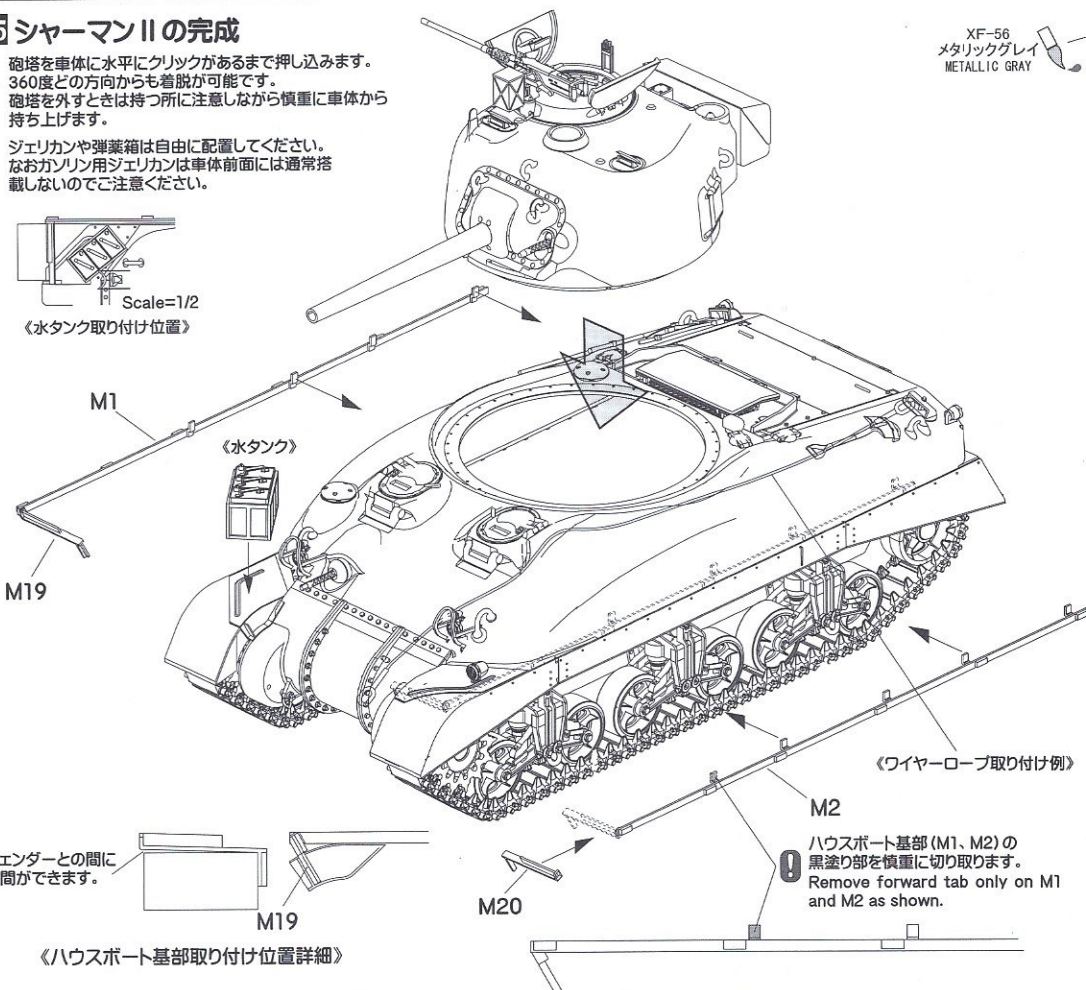
25 シヤーマンIIの完成

砲塔を車体に水平にクリックがあるまで押し込みます。
360度どの方向からも着脱が可能です。
砲塔を外すときは持つ所に注意しながら慎重に車体から
持ち上げます。

ジェリカンや弾薬箱は自由に配置してください。
なおガソリン用ジェリカンは車体前面には通常搭載
しないのでご注意ください。



Scale=1/2
《水タンク取り付け位置》



フェンダーとの間に
隙間が出来ます。

《ハウスポート基部取り付け位置詳細》

《ワイヤーロープ取り付け例》

ハウスポート基部 (M1, M2) の
黒塗り部を慎重に切り取ります。
Remove forward tab only on M1
and M2 as shown.

有限会社 タスカモデリズム

〒422-8027

静岡県駿河区豊田3-5-30

TEL 054-203-2100 FAX 054-203-2103

<http://tasca-modellismo.com>

E-mail info@tasca-modellismo.com

© 2008 tasca MADE IN JAPAN

組み立てを始める前にお読みください

この説明書は35-014 イギリス陸軍シャーマンII初期型(エル・アラメイン 1942)の追加説明書です。組み立てに関しては、別紙の35-014 イギリス陸軍シャーマンII初期型(エル・アラメイン 1942)の組み立て説明書とあわせてご覧頂く必要があります。あらかじめそれぞれの説明書に目を通し、全体の流れを把握してから組み立てに入ってください。

シャーマンII初期型について

エジプト国境まで150kmの距離にあるトブルクは北アフリカ屈指の良港として知られ、北アフリカ戦の戦略上の要衝となっていました。ドイツアフリカ軍団の登場前夜、イタリア軍との戦闘でトブルクを占領したイギリス軍はここを徹底的に防衛し「トブルク要塞」の異名を持つまでになりました。対するロンメル率いるドイツアフリカ軍団にとっては、エジプトを拠点とするイギリス中東方面軍に対する攻撃の拠点としてトブルクの確保は絶対に必要な目標であったのです。ロンメルの巧みな戦略によって1942年6月21日、トブルクは枢軸側の手に落ちました。エジプト攻略の拠点をようやく手にしたロンメルは攻撃の手を緩めず、英軍は前線を更に後退、エル・アラメインを防衛線と定め陣地を構築しました。この地を破られれば、アレキサンドリアまでは100km足らず、英国の中東における足がかりが失われる重大な局面だったのです。

1942年7月エル・アラメインに対するドイツ側の攻撃が開始されましたが、防御線の突破はならず、膠着状態となりました。翌8月、イギリス第8軍の司令官としてモントゴメリー中将が赴任、以降後退は一切許可しない旨の命令を発令し、ドイツ軍に対する反撃の拠点としたのです。チャーチル首相はルーズベルト大統領に対し増援を要請し、アメリカで量産され始めたばかりのM4A1とM4A2若干数が急遽英第8軍に配備されることになりました。同年秋にはアメリカ軍の北アフリカ上陸作戦となる「トーチ作戦」が予定されており、M4シャーマンの実戦投入はそれが最初となる予定でしたが、その前にエル・アラメインの前線にシャーマンが送られることになったのです。9月には318輦のシャーマンがエジプトに到着、砂漠用の装備が追加されました。英軍ではM4シャーマンに独自の呼称を与え、M4A1はシャーマンII、M4A2がシャーマンIIIと呼ばれました。1942年10月23日、ロンメルが病気療養のため本国に帰国していることを知った英軍は攻勢を開始、これがM4シャーマンの初陣となりました。ドイツ軍は「悪魔の花園」と呼ばれる濃厚な地雷原を敷設するなど頑強な抵抗を続けましたが、英軍の第2次攻勢が開始されると総崩れとなり、西方への撤退を余儀なくされました。この戦いは北アフリカ戦の転機となり、翌年の1943年5月、ドイツアフリカ軍団は降伏したのです。

M4シャーマンは事実上の連合国の標準戦車としてアメリカのみならず、英連邦諸国やソ連邦にも供与され、第2次大戦の勝利に貢献した戦車です。しかし、その登場は戦争準備に出遅れたアメリカが既存の戦車を改良していく過程を経て開発されたものでした。第2次大戦前のアメリカには1939年に採用さ

れたM2中戦車がありましたが、車体の大きさの割に小さな砲塔に37mm砲を装備し、車体の四方に機銃を装備するデザインはいかにも旧態依然としたものでした。ところが、第2次大戦の勃発とそれに続くフランス戦における英仏軍の敗北は、目前の戦いに必要な戦車は75mmクラスの主砲を装備していることが必須の条件であることが明らかとなりました。

アメリカ軍では、急遽後継のM3中戦車を開発することとなりましたが、新規に75mm砲を旋回砲塔に装備することは時間的に困難と判断し、緊急の対策として車体に75mm砲を限定射界で装備することにしました。

M2中戦車の足回りなどのコンポーネントを流用し、急遽配備されたM3中戦車はアメリカ国内での定数の確保に努める傍ら北アフリカで苦戦するイギリス軍にも配備され、ドイツの3号、4号戦車と互角に渡り合える戦車としてつなぎの役目をよく果たしました。

M3中戦車の開発が一段落すると、75mm砲を旋回砲塔に装備する真の主力戦車となるべき新型中戦車の開発が続いて行われました。このT6と名づけられた新型中戦車はやはり足回りをはじめとするコンポーネントをM3から流用し、新規に車体上部と砲塔を開発することとされ、M3の量産開始(1941年6月)から遅れること数か月後の1942年10月にはM4中戦車として制式化が決定されました。試作型のT6は車体上部全体が鋳造製の滑らかなシルエットを持ち、被弾径始に優れたデザインでしたが、大戦に必要とされる量産数を確保するには鋳造製の車体を製造できる工場が足りず、溶接構造の車体を持つタイプの生産も計画されました。このためM4中戦車は異なる4つのエンジンを同時に採用し、この違いによってM4、M4A1からM4A4まで5つのタイプが並行して生産されることとなりました。

M4A1はT6の流れを汲む鋳造車体を持つタイプで、M4と同じ航空機用星型エンジンを採用していました。M4A1は1942年2月からシャーマンシリーズの中でも最初に量産が開始され、シャーマンIIとしてエル・アラメインのイギリス軍に急遽供与されたのです。

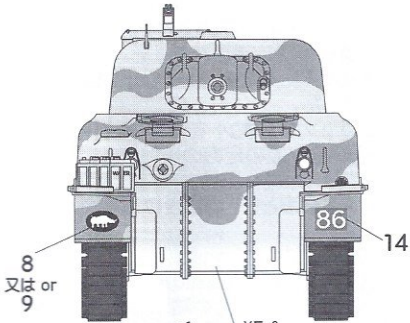
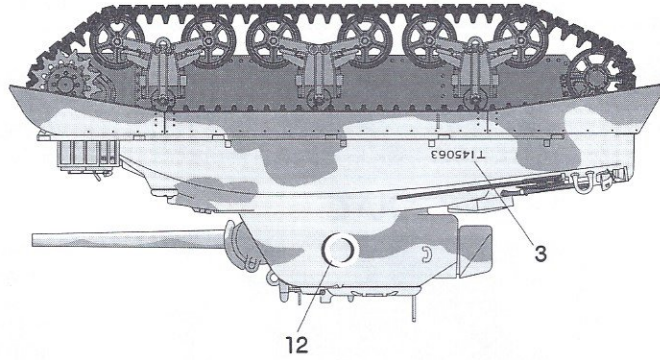
北アフリカの英軍に送られたシャーマンは砂漠用の装備として大型のサンドシートを装備し、車体をトラックに偽装する為の「ハウスボート(屋形船)」とよばれる装備の基部が取り付けられました。また右のフェンダー上には水タンクが搭載され、砲塔後部にはプランケットボックスとよばれる雑具箱が追加されました。さらに無線機はイギリス軍の標準装備であるNo.19無線機に換装され、それに伴いアンテナもイギリス軍規格のものに変更されました。

エル・アラメインの戦場に急遽送られたシャーマンIIはM4A1の中でも最も初期に生産されたタイプで、ドライバーズハッチの前方に直視バイザーを装備、サスペンションはM3中戦車と同じ極初期型の垂直懸架サスペンションを装備していました。実戦に投入してみると直視バイザーは防御上の弱点であることが判明、極初期型サスペンションは車重の増したM4シャーマンでは能力不足とされ、改良型に移行していきました。

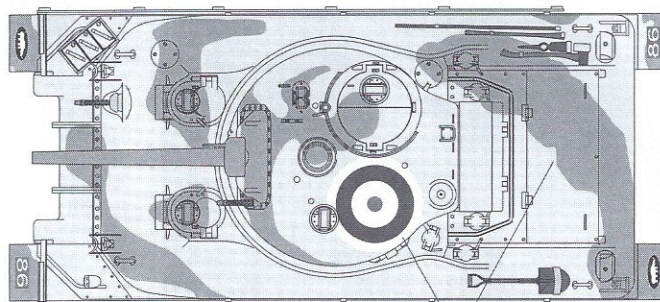
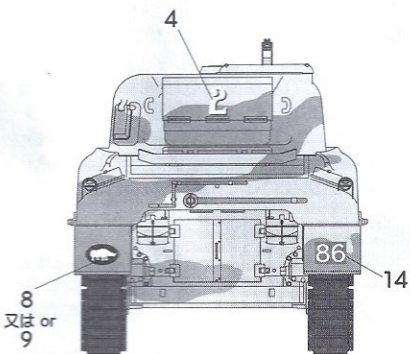
エル・アラメインの緒戦に参加したシャーマンは合計252輦、このうちの大半がシャーマンIIでした。北アフリカの戦いの転機となったこの戦いの文字どおりの主力戦車として英軍を支えたのです。シャーマンシリーズはこの後も様々な改良が加えられ、大戦終結までの間、実に5万輦近くが生産され、連合軍の勝利の原動力となりました。

塗装例 1

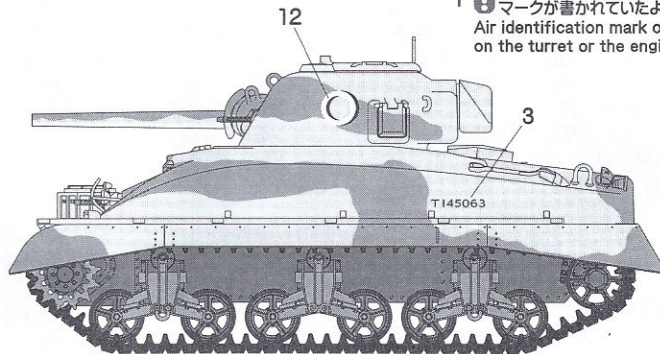
第1機甲師団 第2機甲旅団 第9騎兵連隊 C中隊 1942年10月エル・アラメイン
 C Squadron, 9th Queen's Royal Lancers, 2nd Armoured Brigade, 1st Armoured Division,
 Marking Ex. 1. October 1942, El Alamein



XF-2
フラットホワイト
FLAT WHITE

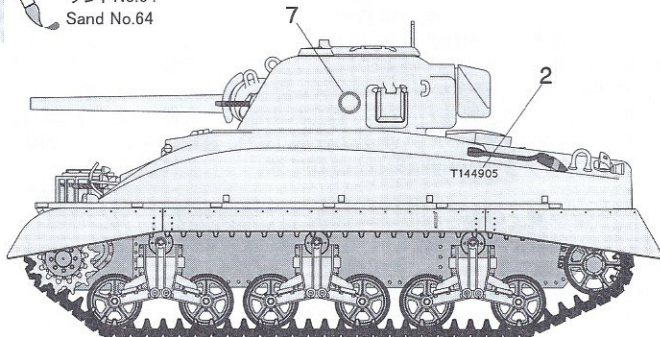
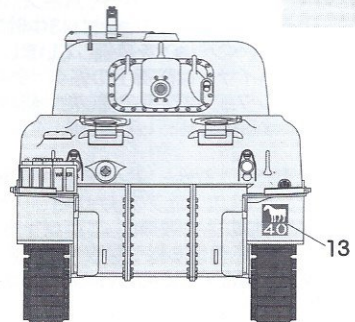


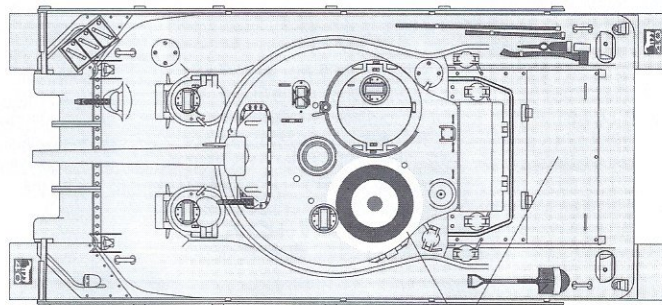
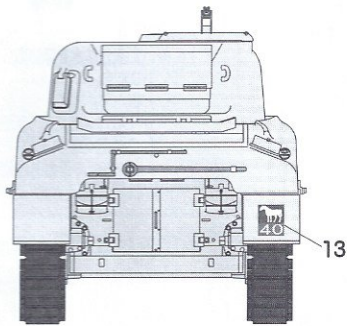
1 砲塔又はエンジンデッキに国籍マークが書かれていたようです。
Air identification mark optional on the turret or the engine deck.



塗装例 2

第2ニューージーランド師団 第9機甲旅団 第3騎兵連隊 C中隊 1942年9月エル・アラメイン
 C Squadron, 3rd Hussars, 9th Armoured Brigade, 2nd New Zealand Division, September 1942, El Alamein
 Marking Ex. 2.



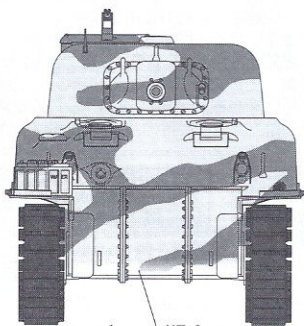
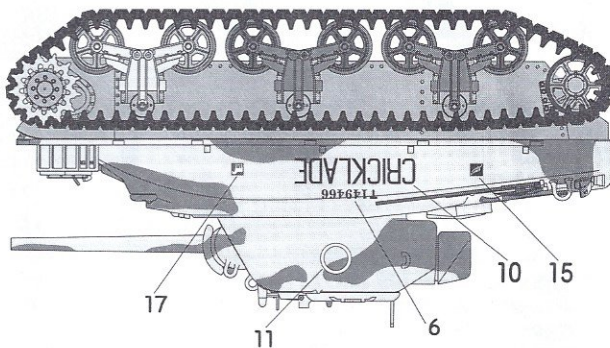


10 砲塔又はエンジンデッキに国籍マークが書かれていたようです。
Air identification mark optional on the turret or the engine deck.

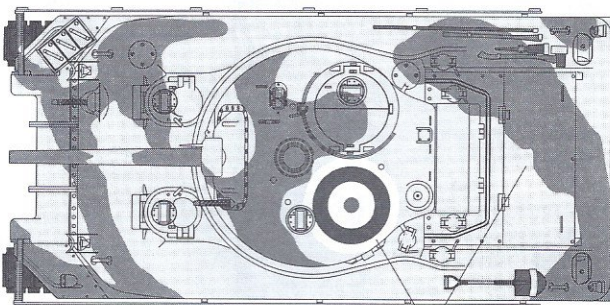
塗装例 3 第2ニュージールランド師団 第9機甲旅団 ウィルトシャー義勇兵連隊 C中隊 1943年4月シリア アレッポ
C Squadron, Royal Wiltshire Yeomanry, 9th Armoured Brigade, 2nd New Zealand Division,
Marking Ex. 3. April 1943, Syria Aleppo

デザートピンク
Desert Pink

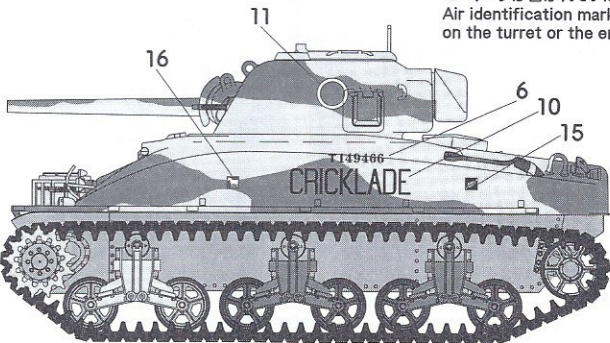
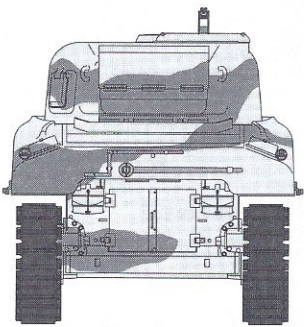
XF-63
ジャーマングレイ
GERMAN GRAY
又は or
XF-61
ダークグリーン
DARK GREEN



XF-2
フラットホワイト
FLAT WHITE



10 砲塔又はエンジンデッキに国籍マークが書かれていたようです。
Air identification mark optional on the turret or the engine deck.



塗装図は全てキットの1/2サイズになっています。
Scale=1/2

■北アフリカのシャーマンIIの塗装について

シャーマンIIの登場した1942年の北アフリカでのイギリス軍の塗装色は、基本的にはサンドNo.64もしくはライトストーンと呼ばれる明るいサンドの基本色に鏡目のはっきりしたダークグリーンの大柄な迷彩が施されていました。同年10月のエル・アラメイン戦に急遽投入されたシャーマンIIはサンドの単色塗装で戦場に到着し、現地でダークグリーンの迷彩が施されたようです。塗装例2の車輦は撮影時には単色でしたが、後に迷彩が施された可能性があります。またエル・アラメイン戦とほぼ同じ1942年10月には基本色の変更が行われ、以後の塗装色はデザート・ピンクと呼ばれる文字どおりピンクがかったサンドを基本色とし、ダークグリーンか黒(ブルーブラック)で大柄な迷彩を施されていたかは定かではありませんが、その後順次変更されていたものと思われる。こうしたことから1943年の塗装例3の車輦は基本色はデザートピンクに塗装されていたものと推定されます。各車輦の迷彩は裏面の塗装図に従って行ってください。

■テカールの貼り方

1. 貼りたいテカールを切り取ります。
2. 切り取ったテカールを水またはぬるま湯に10秒ほど浸します。
3. 台紙ごと引き上げ、布やティッシュペーパーなどの上に置いて余分な水を吸い取らせます。
4. 台紙の端を持ち、テカールをスライドさせて所定の位置に貼ります。
5. 指先に少量の水をつけて、少しずつずらしながら微調整します。
6. テカール内側に残った水や気泡を柔らかい布や綿棒などで押し出すように取り除きます。
7. 貼ったテカールが充分乾燥するまでは絶対に触らないようにご注意ください。
8. モールドなどの表面の凹凸に馴染みにくいときは、蒸しタオルや市販のテカール軟化剤などを使用してください。

各車輦の仕様について 組み立てを始める前にお読みください。

このキットでは北アフリカ戦でのイギリス軍の3種類の塗装例を選ぶことができます。各車輦ごとにサンドシールドの有無、テールライトガード、サスペンションの釣下げフック等の仕様が変わっているため、最初どのマーキングで作るかあらかじめ決め、装備の状態を確かめてから製作にとりかかってください。また車輦ごとに基本色が異なる為、裏面の塗装図を良く見て基本塗装を行ってください。

《基本色の調合》

《サンドNo.64》 Sand No.64

1 : 1

XF-59 デザートイエロー
DESSERT YELLOW

XF-2 フラットホワイト
FLAT WHITE

《デザートピンク》 Desert Pink

2 : 1 : 1

XF-59 デザートイエロー
DESSERT YELLOW

X-17 ピンク
PINK

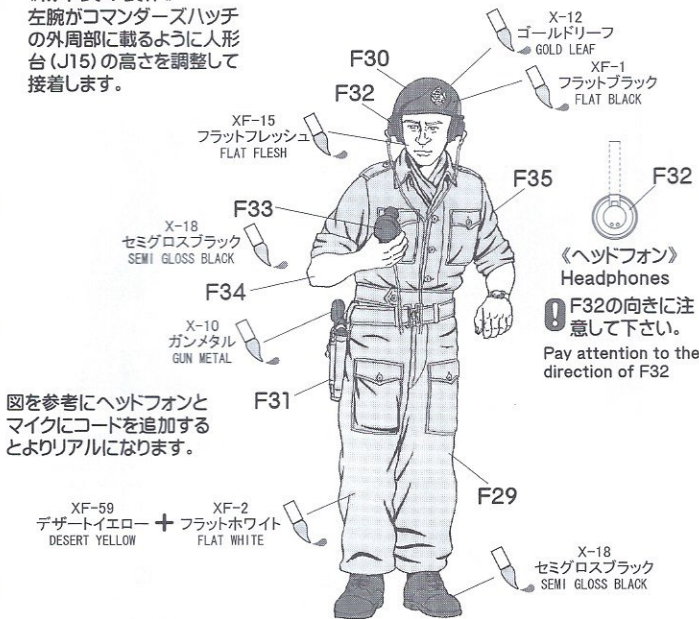
XF-2 フラットホワイト
FLAT WHITE

■カラーナンバー対応表 ※近似色です

タミヤカラー	GSiクレオス・Mrカラー
X-7 レッド	③ レッド
X-10 ガンメタル	28 黒鉄色
X-11 クロームシルバー	⑧ シルバー
X-12 ゴールドリーフ	⑨ ゴールド
X-17 ピンク	112 キャラクターフレッシュ(2)
XF-1 フラットブラック	33 つや消しブラック
XF-2 フラットホワイト	33 つや消しホワイト
XF-6 コッパー	10 カッパー
XF-10 フラットブラウン	131 赤褐色
XF-15 フラットフレッシュ	51 肌色(フレッシュ)
XF-56 メタリックグレイ	28 黒鉄色+30フラットベース
XF-59 デザートイエロー	19 サンティブラウン
XF-61 ダークグリーン	70 ダークグリーン
XF-62 オリーブドラブ	38 オリーブドラブ2
XF-63 ジャーマングレイ	40 ジャーマングレイ

《戦車長の製作》

左腕がコマンドーズハッチの外周部に載るように人形台(J15)の高さを調整して接着します。



図を参考にヘッドフォンとマイクにコードを追加するとよりリアルになります。

《戦車兵の服装について》

1942年当時の北アフリカのイギリス戦車兵はのちのヨーロッパ戦域で見られたような専用のつなぎ服は存在せず、歩兵と同じカーキドリルと呼ばれる木綿の戦闘服を着るか、トラック等の整備用のつなぎを個人で改造して着用していました。砂漠においても英国戦車兵独特の黒のベレー帽を着用し、ベレー帽には部隊固有のバッジをとりつけていました。戦闘時はエンフィールド・リボルバーのホルスターをガンベルトを通して着用していました。ホルスターは布製で、カラーは戦闘服とも明るいデザートイエローです。

《不要部品》 Not used.

- A部品 1,2,5,6,8,9,12
- B部品 6,8,9,11,12
- C部品 2,3,4,5,6,24,31,36,38,39,48,49
- D部品 1,2,3,13
- F部品 1,10,11,25
- G部品 4,5,7,8,9,10,11,13,15,16
- J部品 1,2,3,4,5,6,9,12,16,22,24,25,26,27
- M部品 17,27,29,30,31
- P部品(ポリキャップ poly cap) 1
- エッチング(photo etched parts) 2,3,4

■アフターサービスについて

部品の不足や不良に関しては、無償で正規の部品を送付させていただきます。お手数ですが、お客様のお名前、ご住所、電話番号、商品名、不足部品の名称(番号)、数量を明記の上、メールまたは電話/FAX、お手紙のいずれかでご請求ください。またお客様都合による破損、紛失については、実費で部品をお分けいたします。上記連絡方法のいずれかでご連絡いただければ、弊社から送料を含めた金額および送金方法をお知らせいたします。

●電話/FAXでの受け付け

TEL 054-203-2100
FAX 054-203-2103

●メールでの受け付け

info@tasca-modellismo.com

●お手紙での受け付け/部品代金の送付先

〒422-8027 静岡県駿河区豊田3-5-30 有限会社タスカモデリスモ 部品請求係

ご協力 (順不同)

- ・パッケージ原画:加藤 単郎 氏
- ・人形原型:吉岡 和哉 氏
- ・イラスト:モリナガ・ヨウ 氏
- ・人形イラスト:上田 信 氏

このほか製品の開発にご協力頂いた皆様にご心より感謝申し上げます。